

小説『伊豆の踊子』の英訳を通して効果的な表現方法を探る

静岡県立韮山高等学校 普通科 文系探究コース 英語表現班

1、研究動機

私たちの地元である伊豆にゆかりのある川端康成の小説『伊豆の踊子』の英訳を通して、小説における効果的な表現方法を探ろうと考えた。

2、仮説

小説を英訳する際は、分かりやすい単語を使用することで内容が伝わりやすくなるのではないか。

3、研究背景

・英訳の題材として『伊豆の踊子』を選んだ理由

伊豆を舞台として描かれた作品であるから。

ノーベル文学賞を受賞した川端康成の作品であり、研究資料を集めやすいと考えたから。

特に冒頭部分は伊豆の自然が多く描かれており、物語の場面設定における重要な役割を果たしていると考えたため、冒頭部分を英訳した。

4、調査方法

- ① 『伊豆の踊子』の冒頭部分を班員4人それぞれが英訳する。
- ② 班員の英訳4つと、実際に出版されている外国人翻訳家の英訳2つ、合わせて6つの英訳を英語科の先生方とクラスの生徒に読んでもらい、いくつかの項目についてブラインド評価してもらう。
- ③ アンケート結果を集計し、効果的な英語表現について考察する。

5、調査

(1)班員の英訳

(2)翻訳家の英訳

(3)アンケート項目

- ① 内容 場面情景が浮かんでくるか
- ② 構成 英文の構成や流れが分かりやすく論理的か
- ③ 語彙 ふさわしい語彙を正しく使えているか
- ④ 文法 文構造のバリエーション・それらを正しく使えているか

(日本英語協会のライティングの採点基準を基にして作成)

↓

総合得点の高かった英訳が「効果的な英語表現が使われている英訳」であると定義する

アンケート結果

(1) クラスの生徒へのアンケート結果



(2) 英語科の先生方へのアンケート結果



翻訳家の英訳のほうが高い評価を受けている

5、考察

なぜ翻訳家の英訳のほうが高い評価を受けたのか？

→翻訳家の英訳は、

- ・伊豆の自然や登場人物の心情などの描写が読み手の想像力を掻き立てているため、結果的に読者に伝わりやすい表現となっている。
- ・単純に原文を理解しやすい英語で表現することを目的にしているのではなく、作者の心情や境遇、時代背景なども考慮して訳されている。
- ・伊豆の自然の美しさが伝わるような視覚的表現が使われている

6、川端康成について

川端康成の生涯

- ・ 1899年 大阪府で生まれる
- ・ 1901年 2歳 父が結核で死去
- ・ 1902年 3歳 母も結核で死去
- ・ 1906年 7歳 祖母が死去、祖父と二人暮らしとなる
- ・ 1914年 15歳 祖父が死去、孤児となり叔父に引き取られる
- ・ 1917年 18歳 第一高等学校に入学 東京へ
- ・ 1918年 19歳 秋、伊豆に旅して旅芸人の一行と道連れになる
- ・ 1926年 27歳 『伊豆の踊子』を発表
- ・ 1968年 69歳 日本人として初めてノーベル文学賞を受賞
- ・ 1972年 72歳 自ら生涯を終える

- ・ 大正時代から昭和時代にかけて活躍した作家。
- ・ 新感覚派（近現代日本文学の一つの流派）に属す。
- ・ 1968年、ノーベル文学賞を受賞した際の講演で日本人の死生観や美意識を世界に紹介。

7、『伊豆の踊子』について

川端康成が1918年の秋に、約8日間伊豆を旅した際の実体験に基づいて描かれている。

一人伊豆の旅に出た主人公が、伊豆の自然や踊子との出会いにより「孤児根性」から解放されていく、川端康成の初期の代表作。

1926年、雑誌『文芸時代』に掲載された。

8、英訳分析

英訳分析①（高校生班員A）

「雨脚が杉の密林を白く染めながら・・・」

接続詞→**固い**表現

It rained so hard **that** the color of Japanese cedar forests became fine-textured white

英訳分析②（翻訳家E “THE DANCING GIRL OF IZU”）

「雨脚が杉の密林を白く染めながら・・・」

「仕切るもの」→主人公の**気持ち**を暗に表現？

a **curtain** of rain swept up after me at a terrific speed from the mountain, **painting** the dense cedar forests white

「**一枚の絵画**」のような風景を表現？

英訳分析③ (翻訳家F “The Izu Dancer”)

「雨脚が杉の密林を白く染めながら・・・」

「雨」の細かさを視覚的に表現

A **SHOWER** swept toward me from the foot
of the mountain, touching the cedar forests
white

英訳分析④ (高校生班員B)

「一つの期待に胸をときめかして・・・」

接続詞→固い表現

with the expectation **that my heart**
come true

馴染みのない表現→伝わりづらい

英訳分析⑤（翻訳家E “THE DANCING GIRL OF IZU”）

「一つの期待に胸をときめかして・・・」

my chest pounding with a **certain** expectation

「**特定の**」
→読者の興味を引き付ける

9、班員の英訳の考察

評価が低かった理由

- ① 適切な接続詞が使えておらず、文章中の時間の経過が読者に伝わりづらくなっている。
- ② ただの簡潔な表現に努めただけの英訳になっているため、川端康成が伝えたかった伊豆の自然の様子や主人公の気持ちが伝わりづらくなっている。
- ③ 「袴」や「高下駄」などの日本特有の語句を、“which”などの関係詞を使い細かく説明しすぎていたため、読者の集中力を切らしてしまっていた。

10、翻訳家の英訳の考察

- ① 現在形、現在完了形などの適切な時制や、場面に適した語句が使われており、時間の経過や情景が読者に伝わりやすい。
- ② 日本特有の語句を外国人に伝わりやすい語句に置き換えている。
例 「袴」や「高下駄」を“kimono”や“high wooden sandals”と訳す
- ③ 原文を直訳するのではなく、作品背景（作品が書かれた当時の時代背景、作者の心情、作者の境遇など）も考慮して訳されている。
- ④ 作者が見た伊豆の自然の美しさが伝わってくるような表現が使われている。

11、まとめ

小説における「効果的な表現方法」とは

作者の意図や時代背景も含めて理解したうえで、易しい表現を用いるだけでなく読者が情景を思い浮かべることができるような表現が小説における「効果的な英語表現」なのではないか。